

オーディオ実験室収載

## STAGE+を楽しむ(235)(HP 収載)

—ベームの《こうもり》—

### 1. 始めに

前報(234)に引き続き、STAGE+のベームが指揮する《こうもり》の演奏の試聴を実施します。

### 2. 試聴音源

今回は、STAGE+のベームが指揮する《こうもり》の演奏を選びました。

カール・ベームが指揮する《こうもり》

オペラ

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

収録日: 1972年1月24日

ソリスト:

グンドウラ・ヤノヴィッツ (ソプラノ)、ヴァルデマール・クメント (テノール)、  
エーリヒ・クンツ (バリトン)、エーベルハルト・ヴェヒター (バリトン)、  
ヴォルフガング・ヴィントガッセン (テノール)、レナーテ・ホルム (ソプラノ)、  
ハインツ・ホレチュク (バリトン)、エーリヒ・クーチャー (バリトン)

演奏:?

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、Chorus of the Wiener Staatsoper

指揮:

カール・ベーム

曲目:

ヨハン・シュトラウス2世 喜歌劇《こうもり》



### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結しています。また、ルーター→スイッチングハブ間とスイッチングハブ→PC 間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

1972 年の収録で音質は必ずしも最上とは言えませんが、ベーム指揮のウィーンフィルの演奏の表情は十分に伝わってきます。

歌手達の歌唱は、いずれも実力があり、明晰で張りがあります。雷鳴と稲妻に合わせた上流階級の馬鹿騒ぎの様子は、理屈抜きで楽しめるなど、これぞウィーンのオペラと言う演奏です。







#### 4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX を適用した結果、かなり以前の収録ですが、ベームの端正な指揮の様子や、この喜歌劇のウィーンの上流階級の雰囲気は十分に味わえます。

以上